

第1部

森林と林業の仕事伝える

事

高校生等の林業就業体験等

例

安定した継続力 地域で育てる林業後継者

茨城県林業研究グループ連絡協議会「茨城県」



研ぎの練習をしながら雑談。
地域の人との「斜めの関係」が生徒を豊かに育てる

「林業をとったら何も残らん」
熱い思いで続ける林研活動

茨城県林業研究グループ連絡協
議会（あきやまよいち 稚山與市会長、以下、県林

研）は、10月24・25日の2日間に
わたり、茨城県立大子清流高等学
校（以下、清流高校）生徒への間
伐と高性能林業機械の体験実習を

行いました。県林研は、
県内13の林研グループ
からなり91名の会員を
擁しますが、全国的な
流れと同様、高齢化に
よる会員数の減少や活
動の停止などに直面し、
稚山会長みずから県内
各地に出向き活動を支
えています。

このような状況であ
っても、設立時から変
わらぬ顔ぶれで活発な
活動が続けているのが
大子町林研グループ
（以下、大子町林研）

です。清流高校はこの大子町にあ
ります。大子町林研の会員の多く
が同校前身校のOBということも
あり、林業体験実習では主催する
県林研の下で力強くかわつてき



生徒の到着を出迎える会員たち

ました。学校側も授業の年間スケ
ジュールに組み込んでおり、安定
した継続力で、同校が再編開校し
て以来、今回で18回目の開催とな
りました。



「茨城県の林業を支えて行ってほしい」と平易な言葉で語りかける穂山県林研会長

今年度も生徒が実習を受けやすいよう、前日に現場を整備していました。

清流高校は県内で唯一林業を学べる高

校です。大子第一高等学校と大子第二高等学校を統合して平成16年に開校。森林科学科1クラスと総合科学科2クラスの2学科があります。森林科学科では2年生から、森林科学コースと農業科学コースに分かれ、少人数で専門的な教育を受けることができます。

森林科学科は全国から生徒を募集しているのが特徴で、隣接県から通う生徒や、遠方から入学し大

歩いて移動。班ごとに持ち場に着くなりすぐにチェーンソーのエンジンが響き始めました。生徒たちは事前に「チェーンソーによる伐木等の業務に係わる特別教育」を受講しているので「言葉で教えるより、実際に伐倒をやった方がためになる」という考えです。

一班を指導するのは山仕事歴が50年以上になる金澤一美さんと大子町森林組合作業班6年目で20代

大子町林研の会員数は25名。入会50年以上になる60代後半～70代後半の会員に加え、20代～50代の山仕事現役世代が7名おり、林業を継いだ息子と親子で参加している人もいます。

主な活動は清流高校への林業体験実習のほか、巡回による間伐推進を行ってきました。活動のある大子町は茨城県北西部に位置し、北は福島県、西は栃木県に接しています。面積は3万2600haで、森林は約8割を占め、人工林率は69%。八溝杉(ヤミゾスギ)のブランドで知られ茨城県を代表する林業地です。大子町林研の戸辺洋一顧問は「いい山がたくさんある大子町から、林業をとつたら何も残らん」と思いを語ります。

地域活性化につながる 林業体験実習

10月24日、清流高校農林科学科生徒へチェーンソーでの間伐実習を行いました。森林科学科の1年生全員と、森林科学コースを選択した2年生と3年生を合わせた24名が参加し、1班4名で全6班に分かれ、それぞれに2、3名の指導員が入りました。場所は会員が所有する樹齢約30年のヒノキ林で、大子町森林組合が間伐を請け負っている現場です。大子町森林組合の松浦宣章組合長も清流高校前身の校のOBで林研会員でもあり、また後継者育成の観点からも森林組合として協力し、ここ3年ほどは実習場所と高性能林業機械を提供しています。



引き締まった顔つきで実習に臨む清流高校農林科学科の生徒たち

子町で1人で暮らしながら学ぶ生徒もいます。卒業後、林業関連の仕事に就いて地元に残る生徒がいるので、林業体験実習を通じた高校への支援は、人口減少に悩む大子町の活性化にもつながっている」と県林研では意義を感じています。

「斜めの関係」で豊かな学び

実習当日は、開会式での穂山会長の挨拶が終わると林道を



「チェーンソー技術は将来いろんな役に立つ」と話すベテラン金澤一美さん



菊池駿太さんはお兄ちゃんのように生徒に寄り添って教えていた

の菊池駿太さんです。金澤さんは「たとえ林業の仕事に就かなくても、チェーンソー技術は将来家を建てたとき自分で庭木の手入れができるし、災害時にも役に立つから、しっかり覚えておくんだよ」と生徒に語りかけ、菊池さんはエンジン音に緊張する生徒に寄り添いながら指導していました。

スギに比べ繊維の弾力が強く枝が多いヒノキ間伐は、掛かり木になることが多いので、あらかじめロープ等を使って引っ張っていき、狙った方向に無事に倒れたとき、どの生徒にもバツと安堵の笑顔が広がります。その集中した態度を見た担任の先生は「身につく学びですね」と話していました。

昼食を食べ、午後はチェーンソーの刃研ぎです。エンジン音がしない静かな時間に大子町林研の鈴木良一さんが「日曜日は何やってんだ？」と神奈川県から来て1人暮らしをしている生徒を気にかけていました。学校と家庭の縦の関係に加え、地域の人がかかわる「斜めの関係」が、生徒を豊かな人育ててくれていると担任の先生は言います。林研が学校を支援することの、もう1つの効果です。

ベテランの指導で 早い上達

翌25日は高性能林業機械の体験実習を行いました。参加するのは林業科学コースを選択した2年生と3年生の11名。3人1組に分かれ、ハーベスタ、グラップル、フオワーダを班ごとに巡回しながら操縦します。指導役は林研会員8名と森林組合作業班の3名で、ベテランの大蔵真人さんは操縦席に手が届く位置に立ち、安全に最大限の配慮をしながら生徒を教えていました。

50年以上 変わらぬ関係

大子町林研の二万会長は「口で言っても覚えられないから、ちゃんと付いて体で教えてもらおうのが一番の近道です」と。ゲーム世代の生徒たちは午後には緊張もほぐれ、「明日から働けそうだな」と声をかけられるほど上達しました。

体験実習には、県林研、大子町林研、大子町森林組合、清流高校教諭、茨城県林業技術センター職員、県大子林業指導所職員ら総勢27名もの指導者が参加しましたが、大人たちにも生徒に負けず劣らず和気あいあいとした雰囲気がありました



「アームの操作は慣れるまで大変でした」。菊池駿太さんに体で覚えられるよう教えてもらう生徒

林業体験実習は大きな役割を果たしていることは言うまでもありませんが、お手本となる先輩や大人から人生観を学ぶ機会にもなっています。この生徒らの立場を一番よく理解し

＊まとめ 編集部

ているのが県林研と大子町林研であり、来年もこれまでと同様、変わらぬ支援を続けるつもりです。



エンジン音が響く中、生徒の手をとりながらハーベスタの操縦を教える大蔵真人さん

た。大子町林研では年配者同士「みねちゃん」「ようちゃん」と親しみを込めた名で呼び合い、50年以上もずっと仲が良い理由を「農林家の長男として家に残った人たちが多く、同じ立場の者同士分かり合えるからかも知れない」と戸辺顧問は言います。「家を支えて、働いて、子どもを育て、みんなで一緒に歳をとってきたんだ」と。

二方会長は「毎月のように飲み会やって家族と同じくらい気心が知れているから」だそうで、随分減ったと言いつつ、いまも年4、5回は懇親会をやっているそうです。年長者たちの仲が良くと若手も居心地が良く、このほのぼのとした雰囲気が大子町林研の特徴かも知れません。県林研の椎山会長も、衰えを知らぬ大子町林研の活動に期待を寄せています。

表 卒業生進路実績（令和5年度）

	農林科学科卒業生		林業関係進学者数		林業関係就職者数		林業関係	
	うち森林林学	うち森林林学	うち森林林学	うち森林林学	うち森林林学	うち森林林学	主な進学先	主な就職先
令和元年度	15	7			2	2		大子町森林組合 宮の郷木材事業協同組合
令和2年度	7	4	1	1			長野県林業大学校	
令和3年度	16	6			4	3		宮の郷木材事業協同組合 日立建機株式会社 細田木材工業株式会社
令和4年度	11	5			4	4		大子町森林組合 クボタ環境エンジニアリング株式会社 株式会社スズキアムテック 日立建機株式会社
令和5年度	8	3			2	2		株式会社ヨシナリ林業 鮎川運送株式会社
令和6年度	7	5			4	2		株式会社ヨシナリ林業 野上製材所

事

高校生等の林業就業体験等

例

森林・林業・木材産業への架け橋に 専門学校生と高校生の人材育成研修 日光地区木材流通研究会「栃木県」



伐採木から造材を学ぶ学生たち

木材利用の盛んな地域で

日光地区木材流通研究会（以

下、研究会）が主に活動している
鹿沼市は栃木県北西部に位置し、
男体山から連なる日光連山の麓に

位置しています。

鹿沼市全体の68%が森林で、民
有林の人工林割合は76%と、昔か
ら林業が盛んな地域です。

伐採された木材を活用した建築
材（柱・梁等）の製材や家具・建
具等の生産も盛んで、鹿沼インタ
ーチェンジを降りて車で5分の場
所に木製家具や建具、建材等を営
む企業が集合した鹿沼木工団地も
存在しています。

研究会の日頃の活動は、月に1
回ほど会員が運営するイベントホ
ール（通称…ピノキオホール）で、
今後の森林・林業の方向性や木材
の利活用方法等（森林認証・J-
クレジット・人材育成・原木流通・
木材強度試験等）の様々な課題に
ついて、夕食を囲みながら真剣な
議論を交わしています。

森林・林業・木材産業の
多様な人材育成に向けて

さて、このような研究会ですが、
ここ数年、特に森林・林業・木材
産業に携わる人材育成にも力を入
れており、都内で建築・インテリ
ア等のデザインを専攻する学生や
林業を専攻する地元の高校生を対
象に研修を行っています。

専門学校生
林業の循環を学ぶ体験

学校法人 環境造形学園 専門学
校 ICS カレッジ オブ アーツ は
東京都にある建築・家具・インテ
リア等の勉強を行う専門学校で、
学生たちは卒業後、様々な建築設
計事務所や家具・インテリア関連
の企業等に就職していきます。

就職後、学生たちは学校で得た



間伐体験でチェーンソーの仕組みを学ぶ



メンバーより、ヒノキの植栽の指導を受ける学生



鹿沼原木市場を視察



森戸工房でハンドメイド家具作りについて説明を受ける

知識を建築設計やインテリアデザイン等の様々な場面で生かすことになります。そのデザインに木材を積極的に取り入れてもらうことで将来の木材利用促進につながるのではとの観点から、毎年、専門学校が夏休みに入る8月上旬に鹿沼市へ来てもらい研修を行っています。今年度は8月5・6日に一泊二日の日程で14名が参加しました。

1日目は、山に木を植え、間伐を行い、木を採材し、伐った木の断面で木取りを勉強しました。

学生たちのアンケートから

研修終了後、毎回アンケートを

ます。

2日目は製材工場を訪ね、ハンドメイド家具工房では作成工程についての説明を聞きました。その後は木材をふんだんに用いた木造建築物の見学と盛りだくさんの研修です。

「植えて、育てて、伐って、活用し、また植える」という林業における森林資源の循環をそのまま研修に当てはめた内容になっています。



初めての植栽、伐倒体験を終えて集合写真

取っていますので、紹介します。

☆百年前の祖先たちが植えた木々が現代の人に使用されるのを見ました。自分が植えた木も百年後にはまた誰かの役に立つかもしれない。百年単位のこのような仕事はロマンチックだと思っています。当時植えたのはどのような人たちだったのだろうかと考えてしまいます。

☆木材の加工の仕方（伝統的な工法を含む）や様々な樹木の特性を知りたい。☆収益や人件費などの経営に関するお話も伺えたら、卒業後を見据えた想いから現実的な視点に立った内容までいろいろな感想をいただきました。

卒業後は様々な仕事に取り組まれることと思いますが、新しい分野でのさらなる木材の利活用（需要量の増加）の促進につながばと考えているところです。

高校生

林業講義とドローン体験

栃木県立鹿沼南高等学校は鹿沼市にある県内唯一の林業コースがある高校です。毎年、卒業生の中には県内の林業事業体に就職する生徒や、さらに林業を深く勉強するため県内の林業大学校に進学する生徒などがあり、本県の林業において馴染みの深い高校です。

毎年、研究会が高校に赴き、林業の現状やドローンの操作研修等

を行っているところで、今年度は11月12日に開催しました。

研修の内容は、座学で現在の林業の状況を学び（少し眠そうな生徒が多めですが）、林業でドローンが活用されている事例紹介（この講義が始まると少しずつ目が輝き始めます）、ドローンで撮影した画像解析による森林材積や地形の解析（説明に入る頃は講師を務めるメンバーの話に聞き入っていました）となっています。

講義（座学）終了後、校庭のグ



スマート林業の講義を聴く生徒たち

ラウンドを借りてドローンの操作研修を行いました。最初は操作盤に触れるのを怖がっていた（機体の購入価格も説明していました）生徒たちも、1人2人と操作するうちにだんだん慣れてきて、最後の頃にはみんなで騒ぎながら楽しくドローン操作を行っていました。

ただ、研修中に着陸を失敗したドロー



ドローン操作に挑戦、慣れてきて楽しくなってきた

ンが逆さになってしまい、ドローンを持ち込んだ事業体の方が「やつべー、プロペラが壊れたかー」という時間が少し止まる状況もありましたが。

研修終了後のアンケートより

☆植林作業など現場での研修をしたい。

☆林業で用いられる重機の研修をして欲しい。

☆より実践的な研修を行って欲しい。

等の就業先に林業を見据えた意見も数多く出されていました。

本研修を通して、卒業後の進路（就職先）に林業関係が選ばれればと考えているところです。

減少し続ける 林業従事者

栃木県における林業従事者は昭和35年度には約6300人と多くの方が従事していましたが、昭和52年には約2200人、平成4年には1200人と減少の一途をたどり（以上、栃木県林政史より）、令和5年度は約700人（栃木県森林・林業統計書より）にまで減少しています。

このような中、本研究会の活動が続けることで少しでも林業に関心を持ってもらえるきっかけになり、森林・林業・木材産業関係に就業する方が増えてくれればと考えています。

おまけ イベントでもPR活動

研究会の構成員は鹿沼市の林業関係者が組織する「鹿沼市林業振興会」および「鹿沼地区林業振興協会」の会員にもなっており、市内で行われる様々なイベントに参加し森林・林業・木材産業のPR



木製ボウリングはイベントでも大人気

をしています。

主にのこぎりを用いた丸太切り体験や木製ボウリングなどの木と触れ合う活動を行っているのですが、どのイベントでも幼稚園・保育園や小学生の児童・生徒に好評で、「この子たちすべてが木こりになってくれれば林業に携わる人の人材難なんて関係ないのね」と話す今日この頃です。

＊まとめ

日光地区木材流通研究会
特別会員（栃木県県西環境森林事務所 林業経営課）
寺尾裕之

事

高校生等の林業就業体験等

例

林業と言っても いろんな関わり方があるんだよと 飯と猫と林業女子会「群馬県」



神流町森林組合の土場で体験会参加者と記念撮影

11月上旬、群馬県の神流町^{かんな}で
林業の仕事に興味のある女子学生
などを対象に「林業就業体験J K

(女子高生)・J D (女子大学生)
だって林業やってみたい」が開か
れました。

自らの体験を伝えることにより、
女性でも無理なく就業できる多様
な林業関連の仕事への理解を深め
てもらおうと、伐倒作業の体験や
木材利用の見学、参加者による座
談会が行われました。

主催したのは群馬県の林業女性
グループ「飯と猫と林業女子会」
(田村美恵子会長) です。

ゆるく、美味しく、
楽しくおしゃべり

「飯と猫と林業女子会」(以下、
女子会) とは変わったグループ名
ですが、このような名前にした理
由について田村会長は次のように
話してくれました。

「基本的に私たちは林業関係で
働く女性たちがゆるく集まり、美
味しいものを食べながら、楽しく
おしゃべりしましょうという会で

す。

正式な会の発足は令和5年の8
月ですが、その前年の11月に集ま
り、メンバーが育てた新米やみん
なが持ち寄ったおかずを食べなが
ら語り合ったのが最初の催しです。
猫好きな人が多かったので「飯と
猫と林業女子会」という名前にし
ました」

会員は群馬県内の林業に関わる
仕事に就いている女性で、現在20
〜50代の10名です(今回を機に2
名増えました)。

メンバーは森林組合や林業会社
で働く人、フリーで山仕事に就い
ている人、シイタケ栽培を手がけ
ている人、地域おこし協力隊員、
林業関連専門のキャリアコンサル
タントなど、林業関連といっても
仕事は様々です。

女子会はそんな人々が交流を目



飯と猫と林業女子会の田村美恵子会長
(左)

森林で働くという生き方を 応援したくて

的として立ち上げたグループですが、メンバーの推薦で講師を迎えて「推し活研修会」を行うなど、各人のスキルアップを目的にした活動も積極的に行っています。

今回の林業就業体験の前日も「推し活研修会」が行われました。神流町在住の平松講師により、安全にイベントを行うための現場づくりや道具の使い方等の現場研修のほか、途中からの雨のため講師による林業講話と林業関連職場で働く女性のための座談会や、神流振興合同会社で企画開発に携わる講師による精油製品の教室が開かれました。

女子会は田村会長が中心になっ

て設立されたのですが、その田村会長は平成17年、群馬県林業労働力確保支援センターにアドバイザー補助職として入り、3年後に林業就業支援地域アドバイザーになりました。このアドバイザー時代は林業体験会を開催したり、各種の林業就業相談会へ参加することで、「林業をやってみたい!」という方を就業に導いてきました。

「しかし、あんなに意気揚々と林業に就いた方々が3年とか5年とかで次々と辞めていってしまうんですね。特に女性は9割以上が男性という林業職場で、時に辛い思いをすることもあり、また結婚や出産をきっかけに林業の職場を離れてしまうケースも多いです。男女共にどうしたらもっと続けてもらえるのか、また復帰しやすい環境を作れないかと考え続けてきました。

そうやって考えた末に辿り着いたのは、就業前にはそれなりの相談機関があるのに、就業してからは相談機関がないということ。就業後のケアが足りていないのではということでした。悩んでしまった時に「何か辞めたくなくなっちゃっ

たんです」と気軽に相談できる人がいたら良いのではないかと思います」

そこで田村会長は国家資格キャリアコンサルタントの資格を何とか取得し、「森林で働くという生き方を応援します!」をキャッチフレーズに「フォレスト・キャリア・サポート」としての活動を始めました。平成31年4月のことでした。

ただ体制は整えたものの、組織を離れて個人で相談という業務をするのは難しいのが実態でした。それでもこれまでの人脈から「田村さんのところに相談に行ってみるといいよ」と紹介してもらったり、雇用管理研修会や各種研修会の講師としても活動してきたのです。現在は、相談スキルを磨くためにも、群馬大学で就職活動のキャリアアカウンセラーとしても活動しています。

神流フォレストベースで 伐倒作業の体験

この「飯と猫と林業女子会」による林業就業体験会は、11月3日に群馬県の神流町で開かれました。



神流フォレストベースの山林

神流町は群馬県の南西部にあり、人口は約1600人。約90%が森林です。日本で最初に恐竜の足跡の化石が発見されたことでも知られています。

当日はいつもより遅い台風の影響を受けるのではないかと心配されましたが、天候にも恵まれ、伐倒作業などの体験、地元材を利用した住宅の見学、そしてメンバーとの座談会が予定通り行われました。

この体験会の参加者は、学生さん2名に一般の方1名の3名でしたが、当会のメンバーが8名に講師1名。途中から講師の娘さん(中学生)1名も加わって、賑やかに行われました。



伐倒後に木口面を検討する

講師は前日の「推し活研修会」に引き続き、平松林業代表の平松謙さん（神流町）です。一般的な樹木の伐採・搬出に特殊伐採なども行っており、時には群馬県立農林高等学校などで伐採等の指導もしている方です。

平松さんはまず安全作業と林業道具の説明から始めました。道具はヘルメット、防護パ

学生さん2名は群馬県立農林高等学校（高崎市）の農林業ビジネス学科森林コースの1年生、2年生です。

午前中は伐倒作業の体験です。場所は神流町産材「神流杉」「神流檜」のPR拠点として令和5年に町が整備した「神流フォレストベース」です。伝統工法で建てられた五重塔やあずまやもあり、川向かいには



伐倒終了後には講師から輪切り丸太をプレゼント

道の駅「まんば万葉の里」があります。

講師は前日の「推し活研修会」に引き続き、平松林業代表の平松謙さん（神流町）です。一般的な樹木の伐採・搬出に特殊伐採なども行っており、時には群馬県立農林高等学校などで伐採等の指導もしている方です。

平松さんはまず安全作業と林業道具の説明から始めました。道具はヘルメット、防護パ



こいこいあいランドで昼食をとって、午後は座談会

自らの体験を語り合つての座談会

伐倒作業の終了後に受講者は平松さんから輪切りした丸太をプレゼントされていました。

伐倒作業の体験を終えてからは、

神流川に面している「こいこいあいランド会館」に移動。そこで昼食をとりながらメンバーと参加者の座談会が行われました。

最初にメンバーが順番に自己紹介を兼ねて発言しましたが、おおむね次のような話を聞くことができました。

☆林業会社で働いていたが、林業に従事する夫と結婚。現在は自然農法による稲作や畑作を営んでおり、シイタケ栽培にも取り組んでいる（1歳半の娘さんを伴っての参加）。

☆10年くらい看護師をしていたが、登山、キャンプが好きで林業の世界へ。自分の山を手に入れたら、子どもたちを自由に遊ばせる場所などを作りたい。

☆学校を卒業してから自衛隊やフリーの仕事に就いた後、森林組合に勤務。事務の仕事が多いが、

時には測量など現場の仕事に就くこともある。狩猟免許をとった。

☆森づくりのボランティア活動に参加して3年間、林業の地域おこし協力隊。その後、森林組合で働き、現在は独立して特殊伐採などの仕事をする人が多い。
☆現在、森林組合で働いているが、残業があまりないところがいい。
☆登山が好きで登山ガイドを経て、現在は林業振興の地域おこし協力隊で働いている。

当日参加できなかったメンバーからのメッセージも紹介されました。

☆大学を卒業後、森林組合に就職。自然の中で仕事ができただが、狭い業界で人間関係にも悩んで退職。背水の陣で樹木関係の資格を取得。現在は一般のパート勤めだが、休日は自然に関する活動で現場に行けるのが楽しみ。

このような女子会のメンバーの話の後で、学生の参加者からは、皆さん方のお話を聞かせていただいて、林業と言ってもいろいろな関

わり方があるということをも具体的に知ることができ、大変参考になりました」との感想を聞くことができました。

伝統的構法の町営住宅なども見学

座談会の後は、地元ブランド材「神流杉」を使って建てている神流町の町営住宅を見学しました。建てているのは伝統的な木造建築技術の後継者を育てる「大工志塾」の塾生たちです。課題製作（集合実技研修）の一環として建てているもので、これまでに約290人が参加しているそうです。石の



伝統的構法で建てている町営住宅を見学

基礎の上に直接柱を建てる「石場建て」や、柱と柱の間に板をはめ込む「板倉造り」という伝統的構法を用いた住宅です。この町営住宅は棟上げ後に地元工務店が残りの工程を行っています。

手を雇う、頭を雇う時代から、心を雇う時代へ

女性のみならず長い間、林業従事者の相談に乗ってきた田村会長は、次のような話もしてくれました。

「林業の業界の中では、昨日今日入ってきた人が意見を述べるといったことが難しいようですが、雑談のようにいつでも何でも話せる職場づくり、そしてどんな意見でも一度はみんなの話し合いのテーブルに載せてみることが大切のように思っています。」

これからの時代は『手を雇う、頭を雇う時代か



「飯と猫と林業女子会」の皆さん

ら、心を雇う時代になる』と言われています。受け入れ側の林業事業体の方も大変でしょうが、心を雇うという意識改革もますます重要なものになっていくと考えられます」

林業事業体の意識改革。

何でも打ち明けられるようなグループの存在とともにますます重要になってきていることを感じるのでした。

*まとめ 編集部

事

高校生等の林業就業体験等

例



VRチェーンソー体験(富山県林業カレッジ)
生徒はあまり恐怖感がない様子だった

それぞれの年代で森林と携わる チェーンソー、ハーベスタによる 高校生のVRシミュレーター体験

魚津地区林業研究グループ協議会「富山県」

地域と協議会の紹介

私たちの魚津地区林業研究グループ協議会(以下、協議会)が活動する地域は、富山県の新川地区(滑川市、魚津市、黒部市、入善町、朝日町の5市町)に位置し、県土の約4分の1、民有林面積は2万8000haで県全体の17%を占めています。

雄大な立山連峰をバックに日本一のV字峡「黒部峡谷」、富山湾の神秘「蜃気楼」、日本一大きい「入善ジャンボ西瓜」、青緑色に輝くヒスイの原石が取れる「宮崎ヒスイ海岸」、特別天然記念物「ホタルイカ」など、ここでのしか味わえない豊かな自然や特産品があり

ます。

昭和42年8月、山村から青年層が離れていく中、「豊かな山村づくりは我々の手で」をスローガンに山村の若者、特用林産物生産者、森林組合職員等15名が参加して協議会を発足させました。

現在は、高齢化の影響もあり、主なメンバーは森林組合職員となつていますが、男性19名、女性7名の計26名で活動を行っています。

活動コンセプト

協議会では、「それぞれの年代に合わせた森林の携わり方」を活動コンセプトとしています。イメージ図に示すように、小さな子供がいる若い家族には「STEP1」

として「ぬくもりある生活」を、「STEP2」は小学生の「森の大切さを知る」、「STEP3」は中学生の「挑戦してみる」、「STEP4」の高校生は「実際の森に触れる」、そして「STEP5」は一般社会人を対象に「木に触れ森に携わる」というように、それぞれの年代ごとに区分したテーマで森林と触れ合える活動・体験を行っています。

活動の経緯

現在は、このように年代に合わせた活動を行っておりますが、当初は、市町村や家づくり関連の民間企業が行うイベントでの「木工教室」の出席依頼が中心でした。そのイベントは、年齢関係なく、家族連れが多く、未就学児や小学生が中心でした。

そんなある時、小学校の先生がイベントに來られて「小学生向け



「それぞれの年代で森林に携わる」活動コンセプトイメージ

に授業をしてもらえますか？」と言われ、それをきっかけに「森の寺子屋」(森林教室)を開催しました。森の大切さをわかってもらうことができ、評判も良かったようのでこの教室は継続していました。一方で私たちは、これらを継続していても森林組合職員の増加にはつながっていかないという感じもありました。そのため、県や市町村に何か対策はないかと相談したところ、中学生は「14歳の挑戦」、高校生は「インターンシッ

プ制度」があるのでやってみてはどうか?という提案をもらいました。

これをきっかけに「STEP3」「STEP4」の活動を加えることにしました。また最近では、SDGsを掲げている企業から森づくりをしたいといった要望が増えてきており、「STEP5」の活動も多くなってきました。

今回は、「STEP4(高校生との交流イベント)・実際の森に触れる」のうち、「高校生インターンシップ」について紹介します。

1日体験学習で森づくり指導

私たちは、管内で唯一農林系の授業がある富山県立桜井高等学校土木科2年生によるインターンシップの受け入れを、富山県と一緒にしています。今年度は7月2日(火)に開催し、2名の生徒が参加しました。

体験学習のスケジュールは下記の通りです。

- 9:00～9:20/富山県の森林・林業の概要(座学)
- 10:00～11:30/海岸林におけ

る森林整備(現地見学)

- ・森林病害虫防除事業について
- ・海岸林造成事業について

- 11:30～13:00/移動、昼食

- 13:00～14:15/森林整備における機械等(体験学習)

- ・富山県林業カレッジの概要説明

- ・チェーンソー、ハーベスタ体験

- 15:00～15:30/木材加工場見学、チェーンソーによる丸太切り体験

- ・フルハーネス・パワーアシストスーツ体験

- 15:30～16:00/無花粉スギ「立山森の輝き」苗畑見学

VRチェーンソー体験

VR(バーチャルリアリティ)シミュレーターは、三次元空間で実際の伐木技術を学びながら、チェーンソーによる作業の危険性や事故を未然に防ぐための正しい手順を体得することができる、最先端の教育ツールです。

富山県林業カレッジの協力をいただき、今回は林業労働災害VR体験のうち、「伐木作業中の災



VRハーベスタ体験（富山県林業カレッジ）
生徒はすぐに一連の操作をマスターした

害事例（幹割れ）、「切り捨て間伐の災害事例（幹の跳ね上がり）」を体験してもらいました。

VR体験は、若い人よりベテランの人のほうが怖がられるそうです。それは、ベテランの人が過去に体験した危なかったことや、実際に目の当たりにした事故などを

思い出し、恐怖がわくのだそうです。その思い出した話を語り継ぐことで交流が生まれ、現場での声掛けなどのコミュニケーションにもつながります。

一方、若い人はゲームなどで慣れていることもありますし、経験がないため、それほど怖がらない

とのことでした。

体験した生徒は「あまり林業や林業機械のことは知らなかったんですけど、VRは自分が作業をやってみるみたいな感じで楽しかったです」、もう1人の生徒も「結構迫力があってよい体験ができました」と、やっぱり2人ともそれほど怖がっていない様子で飄々と感想を聞かせてくれました。

今回はいまでもでしたが、過去には、大きな驚きの声を上げる生徒も見受けられました。



実際のチェーンソーを使った丸太切りにも挑戦

VRハーベスタ体験

ハーベスタシミュレーターは、林業機械の操作をリアルに再現した訓練用のシステムで、プロのオペレーターが使用するコントローラーと同じものを用いて、安全かつ効率的に操作技術を習得できるツールです。

このシミュレーターにより、実際の作業を行う前に操作感覚を掴むことができ、将来の現場作業に向けて自信をつけることができる



フルハーネス・パワーアシストスーツ体験

ものです。

パソコンに操作レバーを接続し、その操作レバーを使ってパソコンの画面上でハーベスタを操作するもので、伐倒、造材を疑似体験しました。

デジタルゲーム的な要素が大きいくともあり、私たちが説明すると生徒たちは楽しみなが、すぐに伐倒く枝払い玉切りく集積という一連の操作ができるようになっていました。ちなみに私たちも後でやってみましたが、普段、ハーベスタを運転していないこともあって生徒たちのようにはうまくいきませんでした。

チェーンソーによる 本物の丸太切り体験

VRシミュレーターでの仮想体験を行った生徒は、伐採作業員が使うイヤーマフ付きヘルメットや空調服、チャップスを装着した上で、本物の丸太を玉切りしました。最初は、腰が引けてしまってたが、なかうまくいかない様子でしたが、だんだん上手になっていきました。怪我もなく、丸太を切る体験ができました。

生徒たちは、輪切りの切れ具合を見比べながら、積まれた丸太の前で記念撮影をしていました。

フルハーネス・パワー アシストスーツ体験

今年初めての試みで生徒には大きなタイヤをまずは何も着けずに持ってもらった後、アシストスーツを装着して同じように持つてもらいました。生徒からは、「軽っ!」という意見と、「あんまり変わらない」という意見が出ました。

またハーネスを装着してもらい、みんなで生徒をロープで引っ張り上げる高所体験もやってみました。

森林・林業に もっと携わってもらいたい

「STEP4」の高校生のインターンシップについて紹介しましたが、この活動を通じて森林・林業関係の仕事に就いた生徒は、残念ながら今のところおられません。

一方、今年度体験学習を対象に行ったアンケート調査で「将来どのような仕事に就きたいと思いませんか?」という質問に対して1名の生徒が林業会社や森林組合等の職員(現業・事務)という回答をしてくれました。

また昨年、偶然にも同じ高校の

卒業生が森林組合の作業班として勤務されました。現在は、保育施業班に所属し、無花粉スギの植栽く下刈りをはじめ、除伐、間伐などの作業をされています。

本人に話を聞いたところ「先輩方は人柄も良く、尊敬できる人が多いです。特に上司の班長は、仕事の段取りをテキパキとされ、仕事と休みのメリハリがあつて、毎日学びが多く楽しいです」とのことでした。

高校生の1日体験学習を通じてすぐに林業への就業につながるわけではありませんが、これらの活動を周囲に伝えてもらうことで、たまたま自然が好きなが、森林・林業に興味を持ってくれる機会は増えていくのではないかと思います。

今後、イベント内容がもっとおもしろいものになるように考えながら、1人でも多くの方が森林・林業関係に携わってくれたらいいなと思っております。

*まとめ

魚津地区林業研究グループ協議会
会長 慶伊靖浩